第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：空間把握と景観評価	
日付：１１月　　３日　（　月　）曜日、セッション時間：　10:45～12:15	
司会者名（所属）：樋口明彦（九州大学）	
討議内容	セッション全体： ２１５の発表についてどこまで映像をリアルにするべきかをどう考えればよいのかとの質問が出され、コストが大きく影響するが事案に応じて必要なリアリティはどこまでかを考える必要があるとのコメントがあった。 こうした研究は土木計画学の中で収束する話題なのかどうなのかとの質問があり、他分野でも大きな関心を持たれているとのコメントが有り、将来的にはバーチャルとリアルの境界の不鮮明化により現状と大きく異なる都市計画・デザインのアプローチにつながりうるとのコメントがあった。 例えば観光地において観光客の回遊行動を支援するツールにもなりうるとのコメントがあった。 また、現在土木学会において土木構造物の情報をこれまでとは異なる見せ方で発信し、土木ファンを増やす取組みが進んでいることが報告され、あわせて 216 の発表で示されたような土木構造物についての解釈の多様化をどう考えればよいかとの問いかけがなされた。 これを受けて、現在のところいわゆるオタクに間にとどまっている情報の交流だが、これがもっと広がりのあるものになっていけば、そこで流通する風景の情報がそこにこれまでは訪れなかった人を引き寄せる可能性もある、とのコメントがあった。
	発表番号２１４ 携帯電話のナビ機能を利用した都市空間の把握と従来の地図を利用した場合との比較について実験による違いを明らかにした研究について、発表があった。 今後のまちづくり・都市計画においてどのような展開が期待できるかについての質問があり、発表者からこれまでの一般的な街路とは異なる形態を備えた街路、例えばサイン類の減少やベネチアのような複雑な街路構成などを可能とすることが期待できるとのコメントがあった。 実験の結果、両者のあいだに有意な差が認められなかった街路があるとのことだが、それについて何か説明は可能か」との質問があり、それに対して、発表者から該当街路が南向きであるため逆光となりデータに欠損が生じたことが影響しているとのコメントがあった。
	発表番号２１５ ３DVR を用いることにより宇都宮市内大通りに LRT を導入する際の都市景観の変容をシミュレートし、それを用いて市民に予想される変化を示すことが、市民の都市景観に対する認識にどのような影響を与えるかについて、アンケートによる調査の結果とその解析結果について発表がなされた。 「視点の異なる映像を用いているが、視点の違いによるアンケート結果の変化はよみとれるか」との質問に対して、発表者からそうした検討はおこなっていないとの説明があった。あわせて「市民以外のアンケート回答者について独自の結果が得られているか」との質問があり、発表者からそうした分析はおこなわなかった旨説明があった。 ３DVR の製作費用と製作時間について質問があった。それに対して発表者から、共同研究費と

	して 300 万円の予算があり、4 ヶ月の作業時間をかけて大学内で作成した説明があった。 　映像の修正・変更に要する手間について質問があり、発表者から WS などの場合にその場で修正が可能との説明があった。
	発表番号２１６ 　インターネットの mixi にある「工場・コンビナートに萌える会」の書き込み記述を分析することで近年インターネットを介して風景観がどのように伝播しているかについて分析した結果について発表がおこなわれた。 　書き込み者の属性が不明な中で風景観伝播におけるネットの効果について研究するための方法論について質問があり、発表者から今後方法を考えていきたいとのコメントがあった。 　調査対象者の属性について質問があり、発表者から若い人が主体と考えられるが出版物の売れ行き等を勘案するとそれ以外の世代も参加しているのではないかとのコメントがあった。 　他の対象物についても同じようなパターンがあるかとの質問があり、発表者からまだ検討していないとのコメントがあった。